

# 九州・アジア/中国ビジネス研究会

## 第80回研究会開催案内

**日時：** 平成25年9月27日(金) 18:30 — 20:30

**場所：** エルガーラ・オフィス棟 6階601-2号室 久留米大学福岡サテライト教室

福岡・中央区天神1-4-2 大丸エルガーラ東館 TEL : 092-737-3111

(エルガーラ・オフィス棟は天神・大丸エルガーラ東館と国体道路沿いで隣接するビルです)

**講師：**九州経済連合会インターナショナルビジネスセンター(IBC) 担当部長

**栗根 康雄 (あわねやすお) 氏**

**略歴：**1950年下関生まれ。山口大学経済学部卒業後、1975年西鉄入社。ひと月の福岡研修後、当時の航空貨物事業本部(東京)に配属。6年間の東京勤務を経て1982年1月に香港赴任。1997年の香港返還、新空港開港をみて1998年に帰国。4年の東京勤務ののち、2002年に香港へ再度赴任。2003年SARS(新型肺炎禍)、2004年中英交渉、2008年リーマンショック等を経て2010年に帰国。2年間は東京で香港を中心としたアジア域内支援を担当していたが、2012年7月、九経連IBC設立に伴い、西鉄より派遣されIBC運営に参画、豊富な海外経験を生かし、九州企業のアジア進出の支援を行っている。

### **テーマ:香港～物流事業者から見た変遷とビジネスの優位性**

**概要：**講師は西鉄の国際物流の海外展開の初期に香港に駐在した。当時の香港はまだ反日の気分が抜けていない時期で、8月には映画館に入ると第二次大戦の終戦時の原爆写真や南京大虐殺のニュース映画が上映され、原爆がおとされた瞬間には拍手が起きるような状況であった。最近の韓国や中国の対日感情を見聞きするに、歴史的事実の説明、誤解等を払しょくするには今以上の努力を継続する必要があることが痛感される。初回赴任の80～90年代は香港の中国返還前の好景気時代で、中国市場への参入を前提とした香港進出が盛んであった。84年の中英交渉で中国が97年以降も香港の自治を50年間は維持するとし、一国両制度を約束したことで香港の政治・経済は大きな混乱もなく推移した。97年の返還前に多くの香港人がカナダ・オーストラリア・アメリカへ移住したが現地で定職を見つけられずにUターンしてきたものも多かった。香港における人脈やコミュニケーションネットワーク、同様のビジネス環境は他では見当たらないであろうと思われる。香港の繁栄は中国のバックアップなしには考えられないが、香港独自の歴史と環境は、開放性、国際的視野、柔軟性を特徴とする活力ある経済をはぐくんできた。こうした香港が繁栄してきた要因を、講師の専門から、物流事情を交えながらご説明いただくと同時に、九州の中小企業の海外進出および輸出支援を行っている九経連IBCの立場からも、香港をマーケットとして、また香港を経由した中国展開やアセアン展開を考えるお話を伺える貴重な機会である。

**会費：**参加ご希望の方は以下に申込み、登録の上、当日会場入り口にて参加費1000円をお支払いください。

申込み先：(株)アジアソリューション・中山芳美 宛

電話：092-741-9338 E-mail：yoshimi@asol.ne.jp

九州・アジア/中国ビジネス研究会

主催：一般社団法人九州・アジアビジネス連携協議会

共催：近畿大学産業理工学部・アジアビジネス研究会